

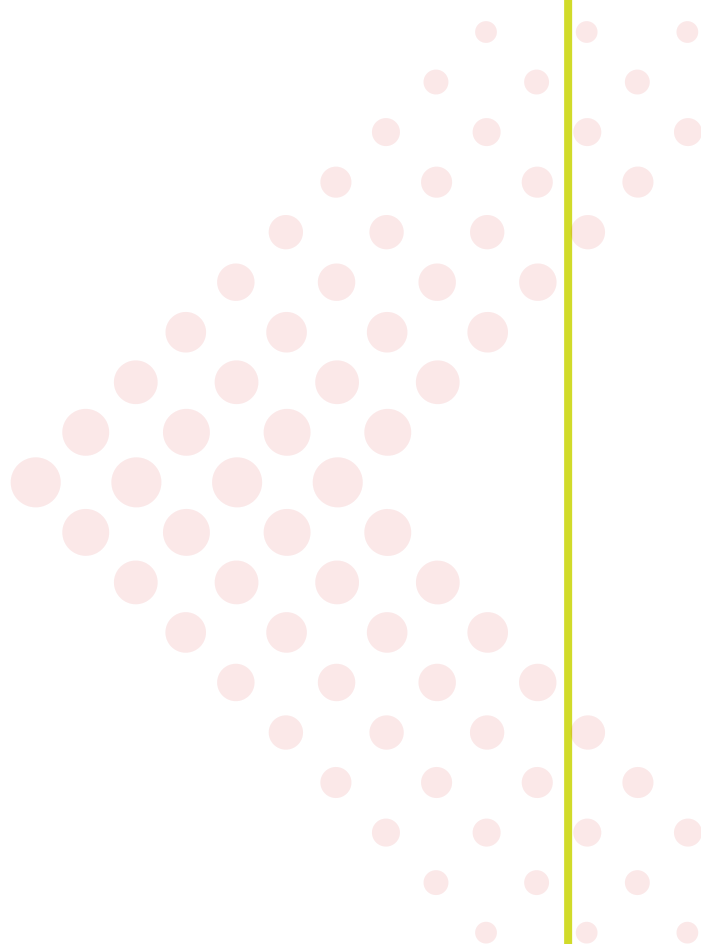
茅野市教育委員会

公立学校情報機器整備事業 に係る整備事業計画

2024

2025年1月

茅野市教育委員会事務局



01	端末整備・更新計画	P3 - 4
02	ネットワーク整備計画	P5 - 6
03	校務DX計画	P7 - 8
04	1人1台端末の利活用に係る計画	P9 - 10

○端末整備予定台数（令和6年度～令和10年度）

-	R6	R7	R8	R9	R10
①児童生徒数 （人）	4142	4074	4021	3893	3785
②予備機を含む 整備上限台数 （台）	4763	4685	60	208	332
③整備台数（台） （予備機を除く）	0	4074	0	0	0
④基金事業による 整備台数（台）	0	4074	0	0	0
⑤更新率	0%	100%	101%	105%	108%
⑥予備機整備台数 （台）	0	611	0	0	0
⑦基金事業による 整備台数	0	611	0	0	0
⑧予備機整備率	—	15%	—	—	—

※児童生徒数は、推定人数。

※②＝（当該年度の①）×1.15－（基金事業により整備済の台数）

※⑤＝（当該年度までの③）/①×100 →令和7年度に100%の整備を目指す

※⑥～⑧について、予備機上限は③整備台数の15%となる。

○端末の整備・更新の考え方

- ・現在使用している端末の耐用年数5年が令和7年度に経過するため、令和7年度に端末の全面更改を行い、1人1台端末を再度構築する必要がある。
- ・予備機は、上限である児童生徒数の15%を整備する。
- ・更新端末については、これまでの故障率や機能の必要性を考慮し、学校の意見を鑑みた上で、OSの選定を行う。

○更新対象端末の再利用・リサイクル・処分について

【対象端末および台数】

Surface Go	1,335台
HP Probook	3,334台

【再利用・リサイクル・処分等の方法】

① 市内公共施設や福祉施設など地域、庁内各部署で再利用

⇒100台程度（処分時の故障端末を除いた必要数）

② 小型家電リサイクル法の認定事業者に再使用・再資源化を委託

⇒台数未定（処分時に再利用不可の端末台数による）

③ OS業者等による使用可能端末の売却

⇒台数未定（処分時に再利用可能端末の台数による）

【端末データの消去方法】

①の場合　：市教委により削除（初期化）

②,③の場合：処分業者へ委託（市教委による視認を行う）

【スケジュール予定】

令和8年1月～4月　新規購入端末の使用開始

令和8年4月～6月　旧端末の状態の把握⇒再利用/リサイクル/処分を判断

令和8年8月　処分事業者 選定

令和8年10月　使用済端末の事業者への引き渡し

02 ネットワーク整備計画

○十分なネットワーク速度が確保できている学校の割合

-	R6	R7	R8	R9	R10
学校の割合（％）	100	100	100	100	100

○簡易アセスメントの実施（計画・対策）

【実施計画】

- ① 毎年度はじめに学校へネットワークの使用・環境状況のヒアリング調査を行う。
- ② 市教委で現地調査を行い、簡易的な速度調査を行う。
（推奨帯域を基準に速度の安定性を担保する。）
- ③ 保守業者によりネットワークの監視を常時行い、不具合の有無やその原因、また、ネットワークの使用状況を確認する。

【対策（課題が明らかになった場合）】

- ① 保守業者と連携し、不具合の原因を追究する。
- ② 市教委または保守業者によって原因の改善に努める。
- ③ ②での解決が難しい場合、他業者によるアセスメントを行う。

○アセスメントの実施（計画・対策）

【実施計画】

大きな問題が生じ、市教委による原因の把握と解決が難しい場合、速やかにアセスメントを行う。アセスメントは、業者へ委託する。

【対策（課題が明らかになった場合）】

課題に対する対応を各保守業者と共有し、課題の解決を速やかに行う。

茅野市におけるアセスメントの必要性

これまでネットワークの不具合について、市教委で把握し、原因の究明と解決を行ってきたため、現状ではネットワークの不具合は改善されている。したがって、アセスメントは昨年度までに完了していると認識している。

また、保守業者による機器の死活監視やトラフィックおよびログの確認、現地への訪問による対応等の保守を行っており、また、毎年、市教委による簡易速度測定調査で生徒数に応じた推奨帯域を実証しているため、新規のアセスメントを行う予定はなく、来年度以降も現状の対応を継続していく。

【これまでの不具合と原因】

〈不具合と当時の状況〉

令和2年度から令和3年度にかけ、ネットワークのつながりにくさや途切れるなどの不具合が複数の学校から報告された。

そのため、保守業者と連携し、機器の死活監視やトラフィックおよびログの確認、ひいては現地への訪問による不具合改善の対応を実施した。

〈原因と結果〉

現地で測定機器を期間的に設置しネットワーク調査等を行い、不具合をたどっていった結果、L3SWに原因がある可能性を確認したため、新しいL3SWに交換したところ、報告の不具合が改善された。

〈対策とその後の経過〉

上記の結果、停電や機器の故障を除き、ネットワークの不具合は見られなくなった。

その後も保守業者による機器の死活監視やトラフィックおよびログの確認、現地への訪問による対応等の保守を行っている。また、毎年、市教委による簡易速度測定調査で生徒数に応じた推奨帯域を実証している。

共通項目	R6	R7	R8	R9	R10
FAX・押印の原則廃止に取り組んだ学校の割合（％）	-	10	30	70	100
不合理な手入力作業の一掃に取り組んだ学校の割合（％）	-	20	40	80	100
クラウド環境を活用した校務DXの徹底に取り組んだ学校の割合（％）	-	90	100	-	-

選択項目	R6	R7	R8	R9	R10
12.宿題（学期中のもの）をクラウドサービスやデジタルドリル教材を用いて実施・採点している学校の割合（％）	30	60	80	90	100
13.宿題（長期休暇中）をクラウドサービスやデジタルドリル教材を用いて実施・採点している学校の割合（％）	30	60	80	90	100
32.1人1台端末のパスワードについて、教職員が把握し一括で管理するのではなく、児童生徒に管理を任せている学校の割合（％）	30	50	100	-	-

03 校務DX計画

○課題と解決策

教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に、取り組むことが望ましい項目を実現する上で、下記の①～④を踏まえ、検討していく。

① 障害となる課題

- ・教員の情報リテラシー能力のバラつき
- ・セキュリティが個人のリテラシー能力へ依存することになること

② 障害となる課題の解決策

- ・教員の情報リテラシー能力の向上のための研修の実施
- ・校務におけるセキュリティ研修の実施（校務システムの使用方法の周知）

③ 校務系ネットワーク・システム等の現状分析

- ・現状のシンククライアント端末での校務では、汎用性に乏しく、不便であり、現在のICT教育にはそぐわない。

④ 望ましい校務の在り方に関する計画

- ・PCの持ち運びの可能化やフルクラウド化、ネットワークの統合により、効率的なICT環境を創出していく。
- ・フルクラウド化等を推進することで、セキュリティ対策が大きな課題となり、その対策には、教員個人のセキュリティ意識への依存が大きくなるため、システムによるセキュリティの担保に加え、教員のリテラシー能力の向上を推し進める。
- ・校務の際、各教室から情報を共有し、リアルタイムでの情報更新が望まれ、授業と校務の隔たりをなくすことで教員の業務改善につなげていく。

茅野市では、令和7年度9月からフルクラウド・統合ネットワークによる校務システムの運用を開始する。

1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

- ・居場所や子どもの特性や個に応じた学習に取り組む姿
- ・学習のツールを用いた協働的な学びの姿
- ・子どもが自己の学びのツールとして活用している姿

GIGA第1期の総括

- ・授業支援アプリにより、個々の子どもの意見を取り上げるなど、表面には出にくい子どもの意見を取り上げることが可能となった。
- ・予想より早い段階で端末の故障が増えたため、1人1台端末の環境の維持が難しかった。

1人1台端末の利活用方策



1人1台端末の活用

子ども自身が文房具の一つとして端末を利用し、主体的な学びに結び付けていく



個別最適・協働的な学びの一体的な充実

子どもの持つ特性、環境に応じた学びの実践と居場所を
限定しない協働的な学びの推進

⇒計画的な教員のスキルアップ研修の実施



学びの保障

(臨時休業等の緊急時/不登校対策/特別支援教育/外国人児童生徒)

- ・オンライン授業の活用
- ・学校に来られない児童生徒に対する、メタバースを利用した居場所の創出
- ・日本語でのコミュニケーションが困難な児童生徒に対する、AIを用いた言語理解

CHINO



まんなかに愛のあるまち

CHINO
茅野市